

事務連絡  
令和4年5月10日

各正会員  
事務局責任者様

公益社団法人全国産業資源循環連合会  
専務理事 森谷 賢  
(担当:事業部 本多)

## 産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2022年1-3月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第7号(令和4年4月7日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2022年1-3月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

次期(2022年4-6月期)につきましては、令和4年7月中旬頃に調査依頼を予定しておりますので、ご承知おきください。

## 産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2022年1-3月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

### 〔調査結果の概要〕

今期の調査は278社から回答があった。景況判断DIは▲15(前期調査から5ポイント悪化)となった。来期の見通しは▲17となり、2ポイント悪化する見込みとなっている。

経営上の問題点については、「修理、修繕費等の増加」、「従業員の不足」の回答割合が特に高かった。「その他」の記述回答では、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。

以下、その他業況感DIの内訳

2021年10-12月期に対して、

- ・売上高DIは-8で、19ポイント悪化
- ・処理量DIは-15で、17ポイント悪化
- ・営業利益DIは-11で、9ポイント悪化
- ・資金繰りDIは2で、3ポイント改善
- ・借入難易度DIは12で、3ポイント改善
- ・設備投資DIは3で、1ポイント悪化
- ・従業員数DIは0で、2ポイント改善
- ・契約単価DIは、収集運搬が6で、2ポイント改善  
処分が5で、1ポイント悪化

- 売上高の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で1.4%減となった。
- 処理量の動向については、前年同期比(3ヶ月平均)で5.5%減となった。
- 経常利益率については、平均値が9.6%で前期調査(7.4%)より改善した。

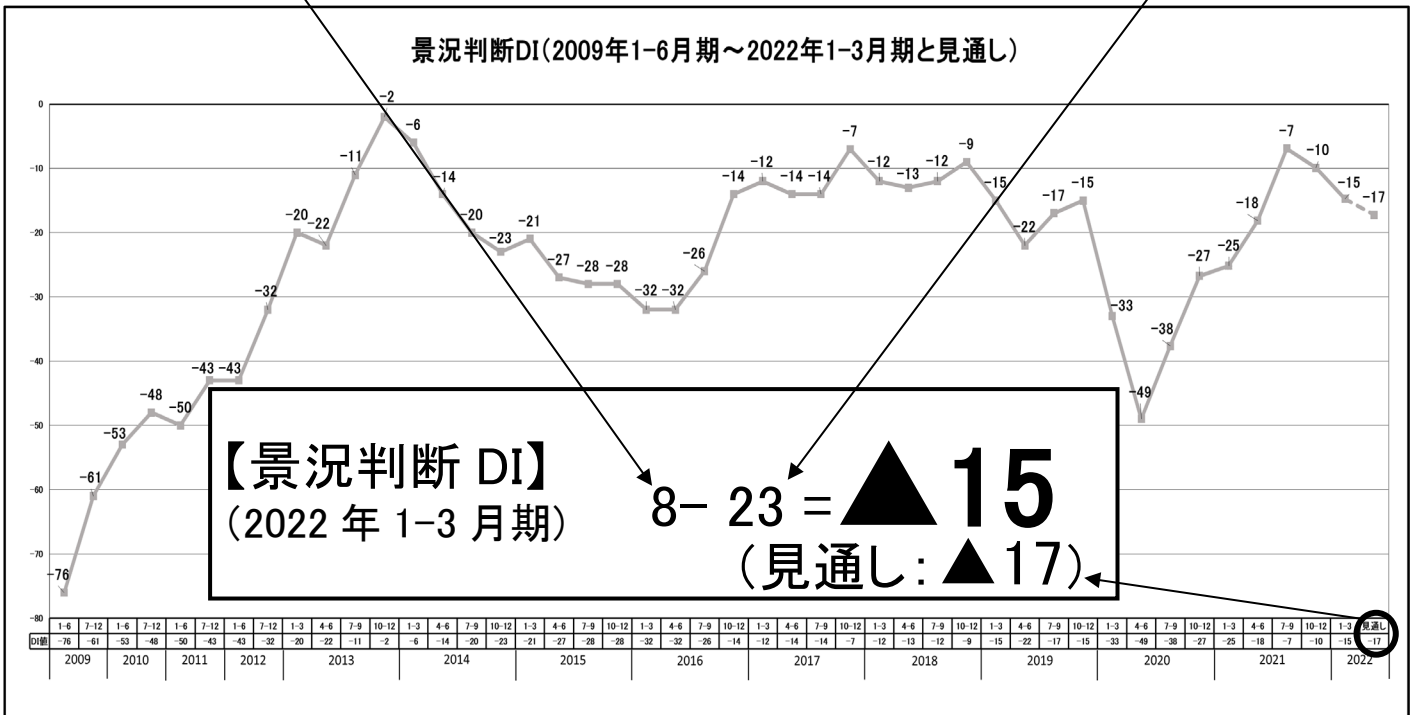
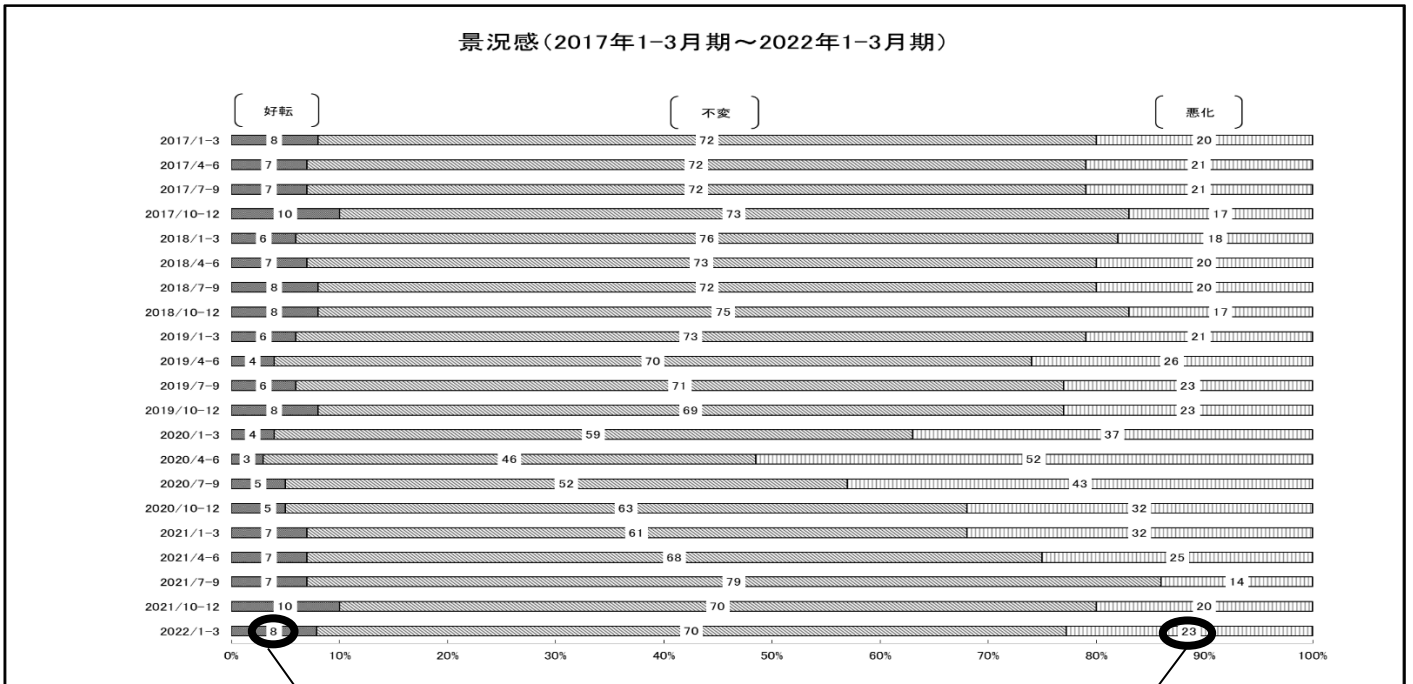
※DIとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009年から半期周期の調査として実施していたが、2013年からは四半期周期の調査に変更している。

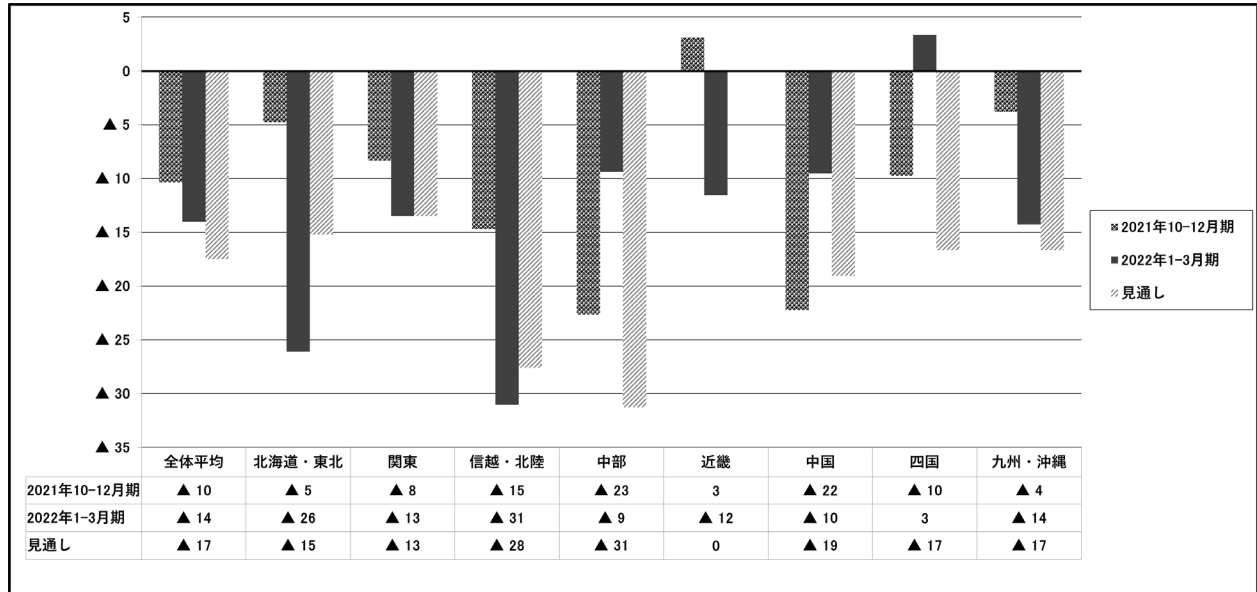
# 1. 景況感 DI(「好転」・「増加」―「悪化」・「減少」の企業割合)

## (1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲15 となり、5 ポイント悪化した。  
見通しは▲17 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「中部」、「中国」、「四国」が改善した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「北海道・東北」、「信越・北陸」、「近畿」が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



# 地域別景況判断 DI

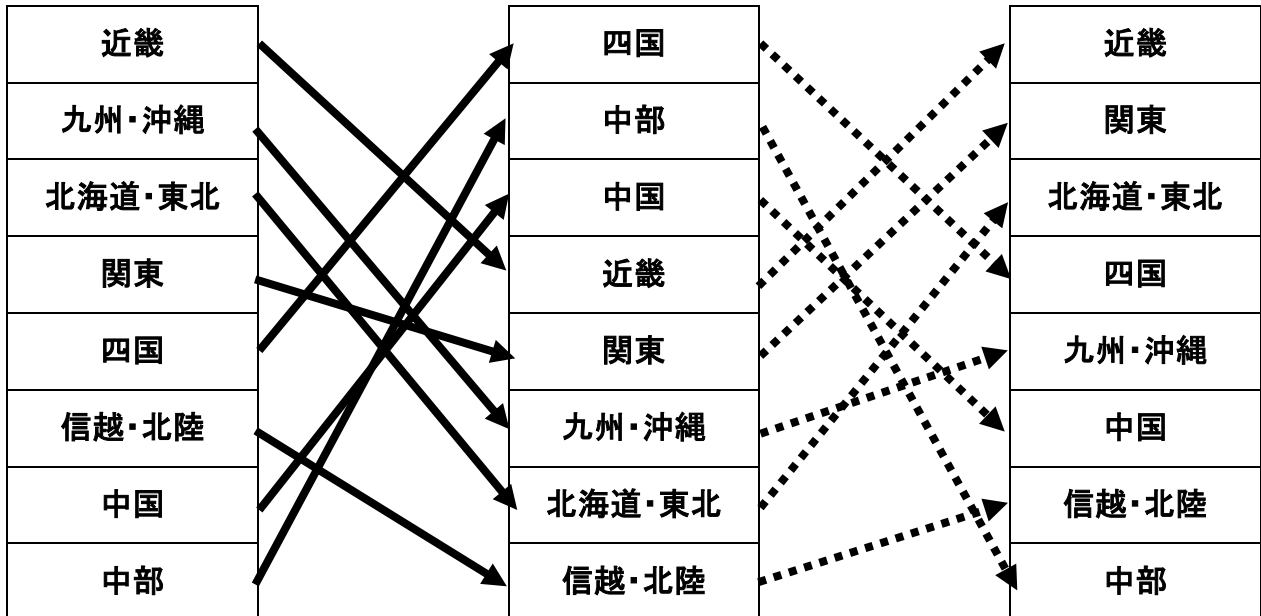


## (ランキング推移)

2021年10-12月期  
(前期)

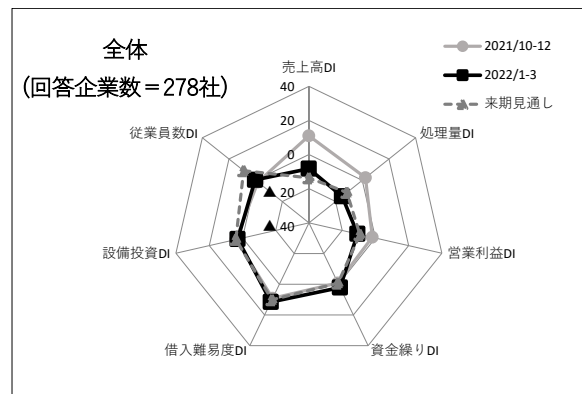
2022年1-3月期  
(今期)

2022年4-6月期  
(見通し)



## (2) 売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

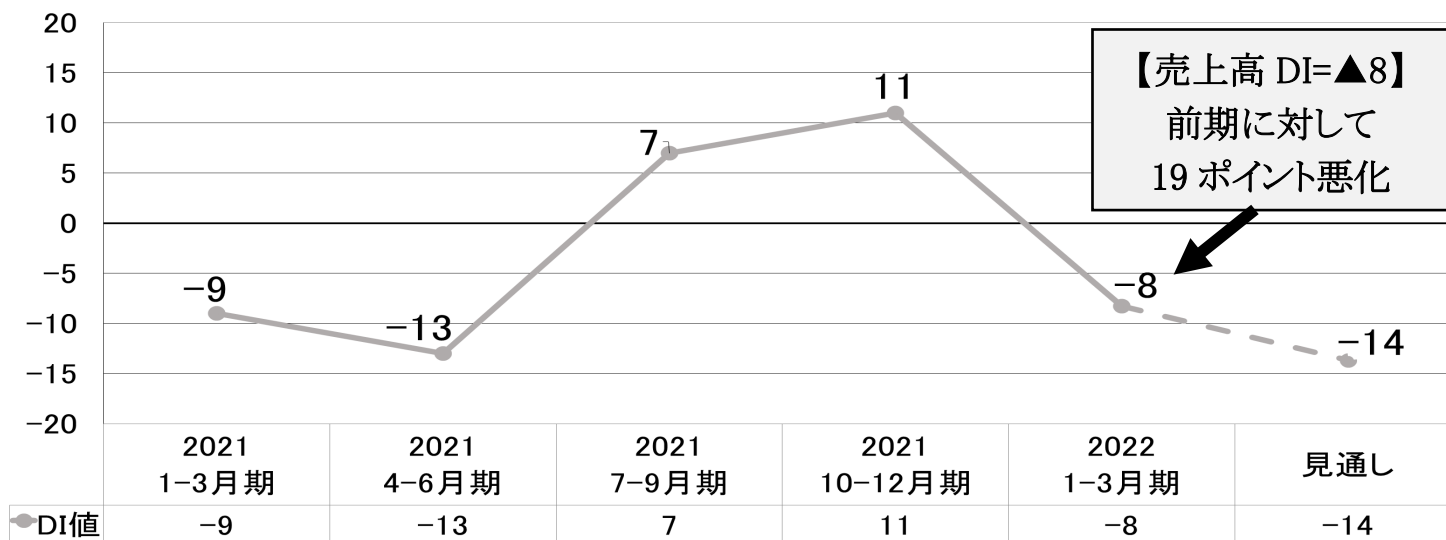
- 前期と比べて、資金繰り DI、借入難易度 DI、従業員数 DI が改善した。
- 見通しは、売上高 DI、資金繰り DI、借入難易度 DI が悪化する見込みとなっている。



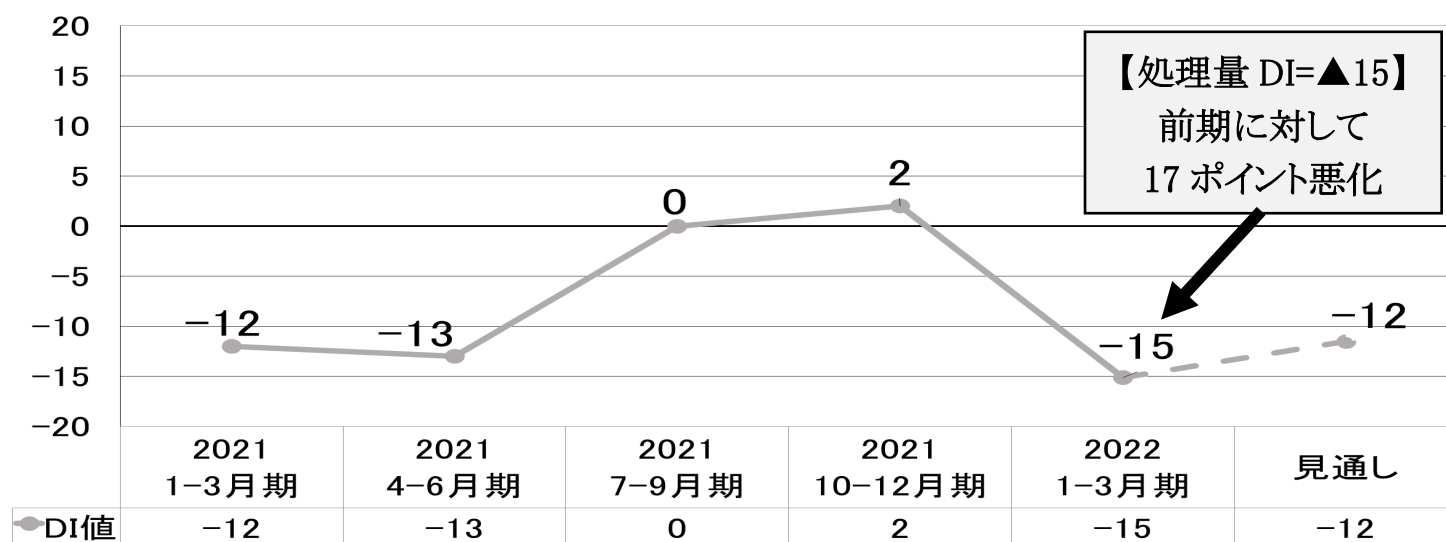
以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は▲8 となり、前期と比べて 19 ポイント悪化した。  
見通しは▲14 となり、6 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は▲15 となり、前期と比べて 17 ポイント悪化した。  
見通しは▲12 となり、3 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲11 となり、前期と比べて 9 ポイント悪化した。  
見通しは▲9 となり、2 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は 2 となり、前期と比べて 3 ポイント改善した。  
見通しは▲1 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 12 となり、前期と比べて 3 ポイント改善した。  
見通しは 10 となり、2 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は 3 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。  
見通しは 4 となり、1 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は 0 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。  
見通しは 9 となり、9 ポイント改善する見込みとなっている。

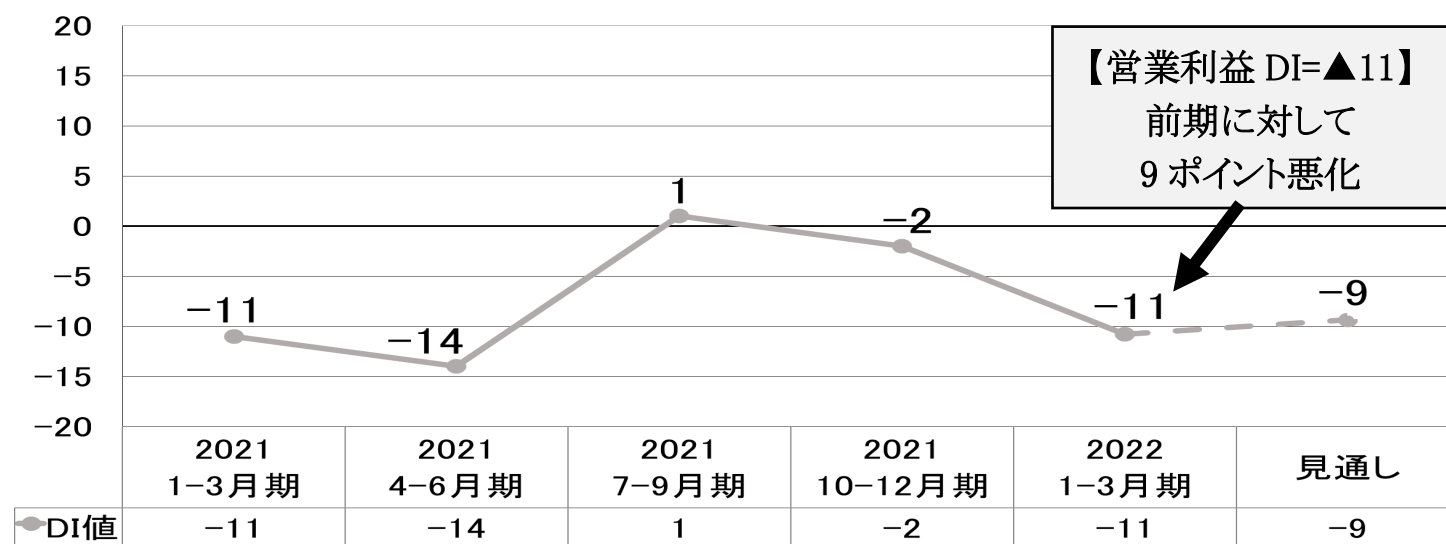
### 売上高DI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)



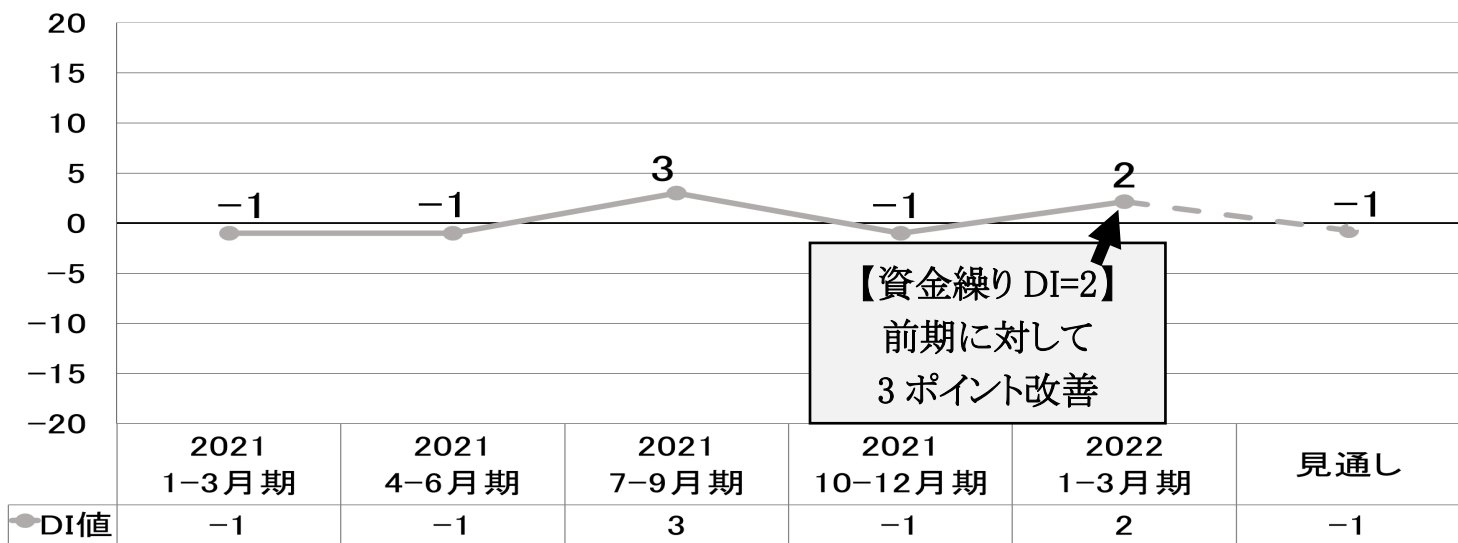
### 処理量DI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)



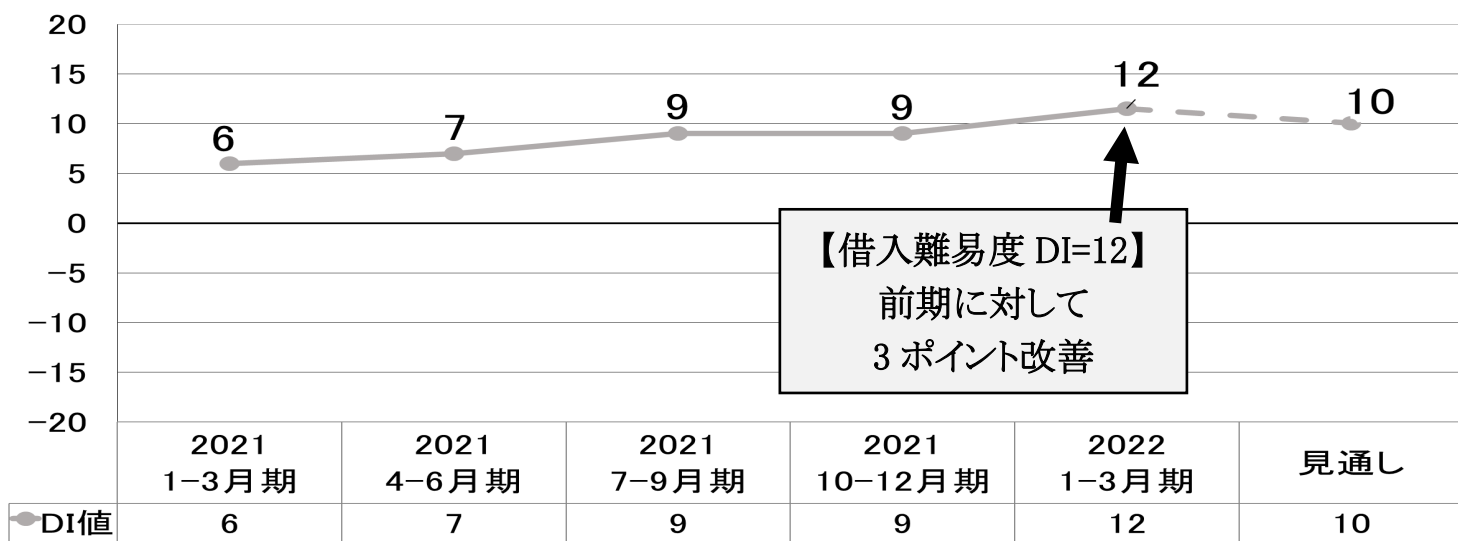
### 営業利益DI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)



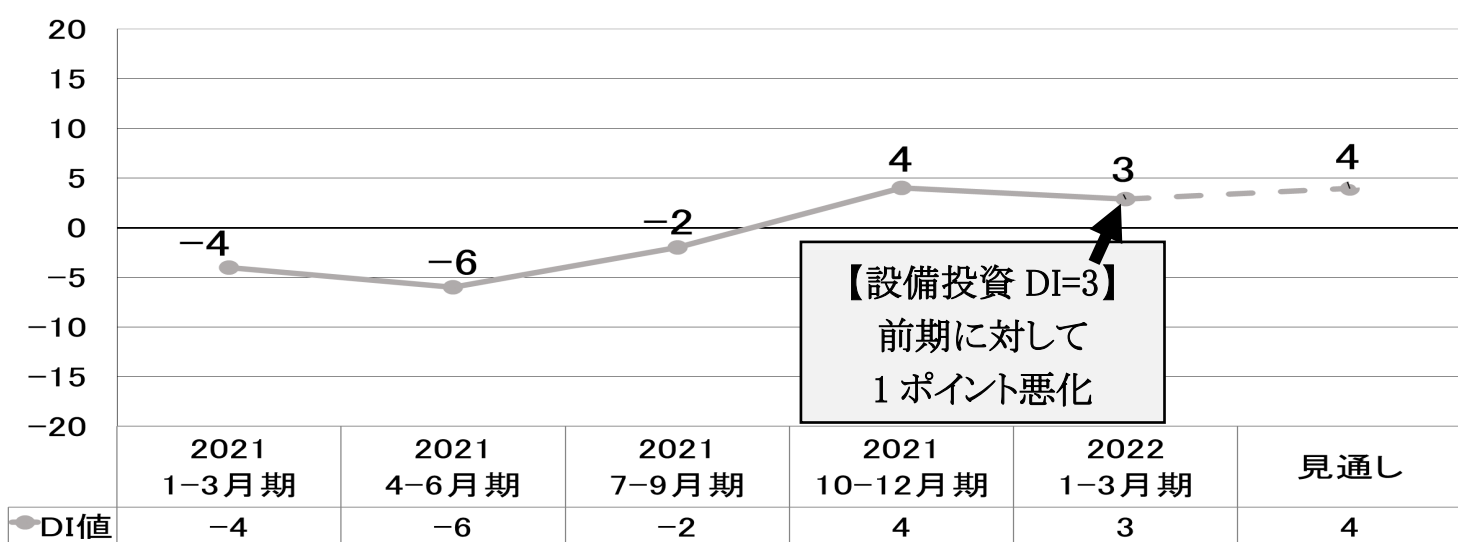
### 資金繰りDI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)



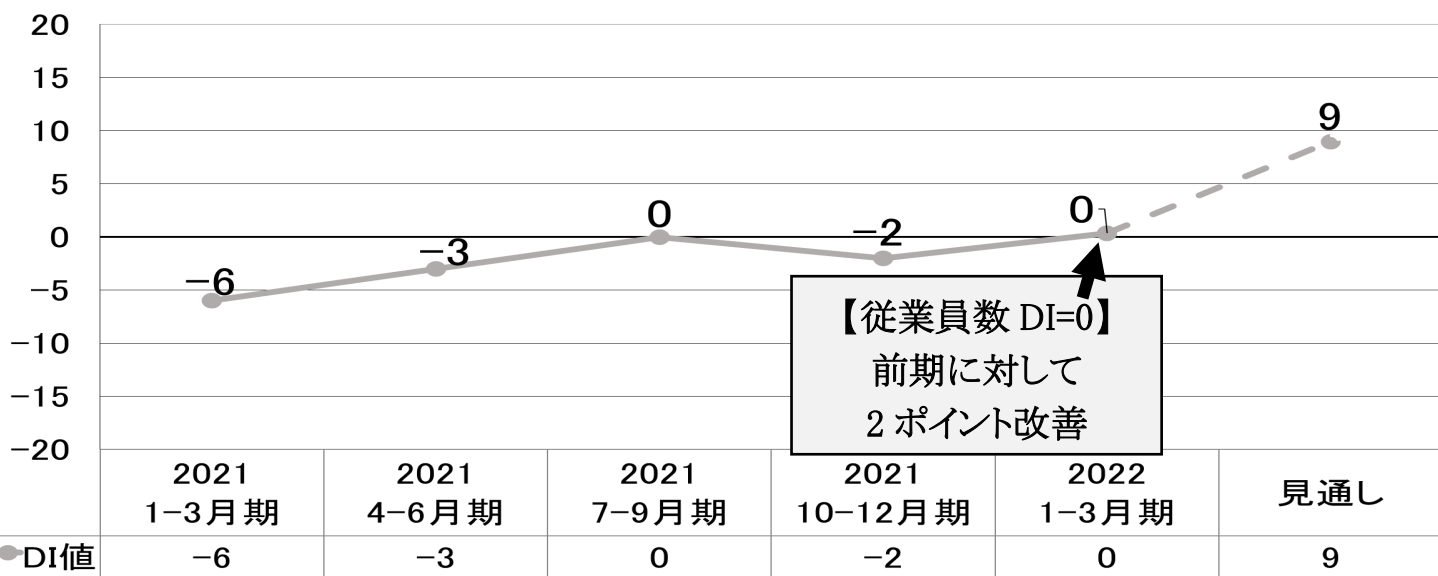
### 借入難易度DI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)



### 設備投資DI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)

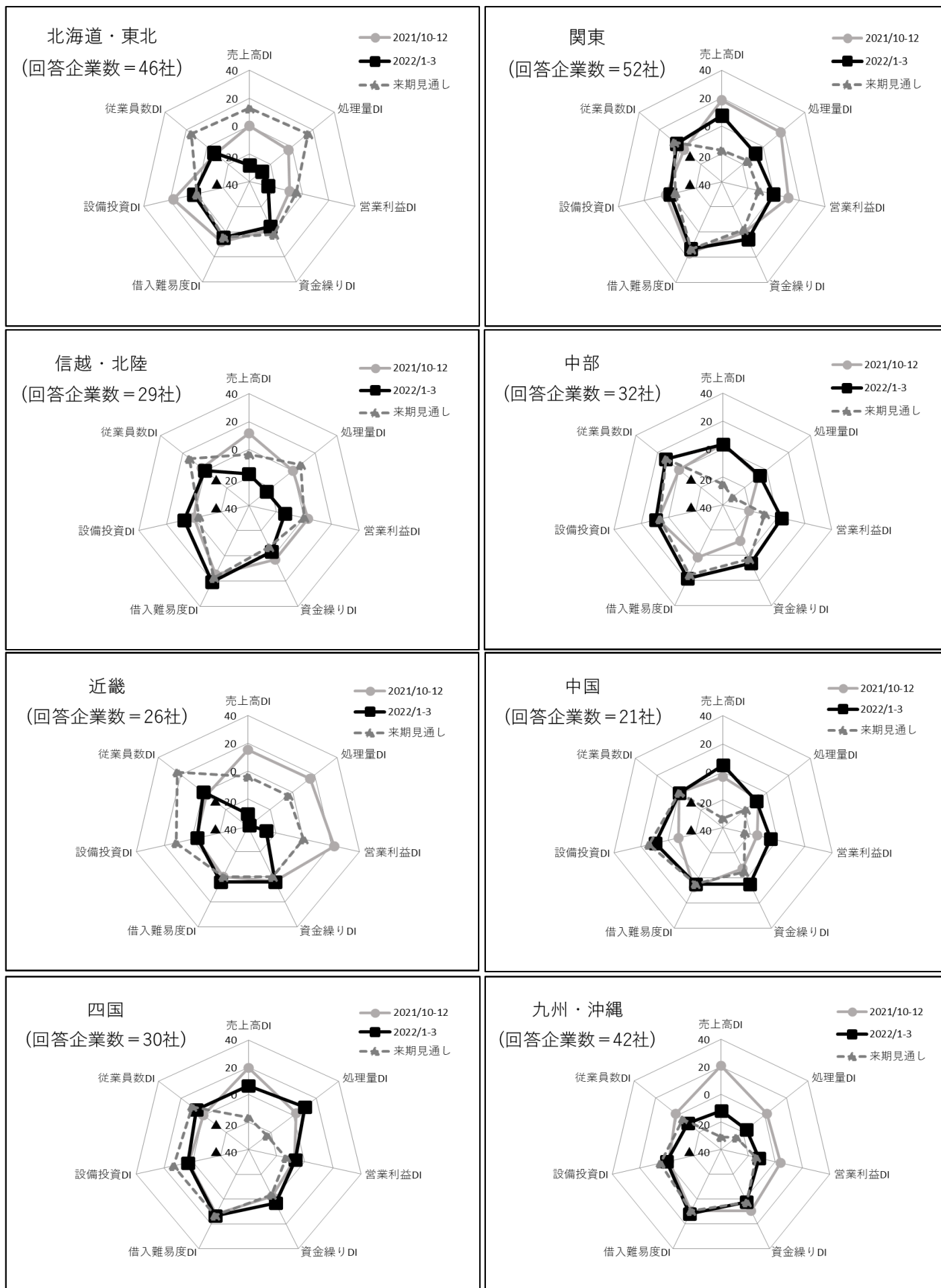


## 従業員数DI (2021年1-3月期～2022年1-3月期と見通し)



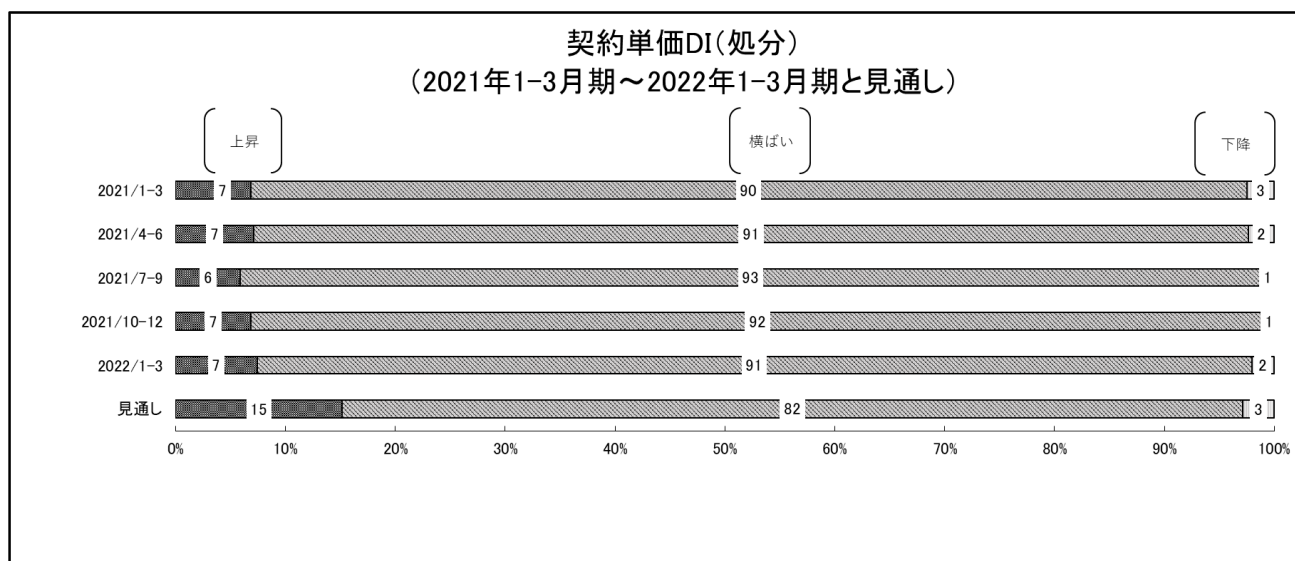
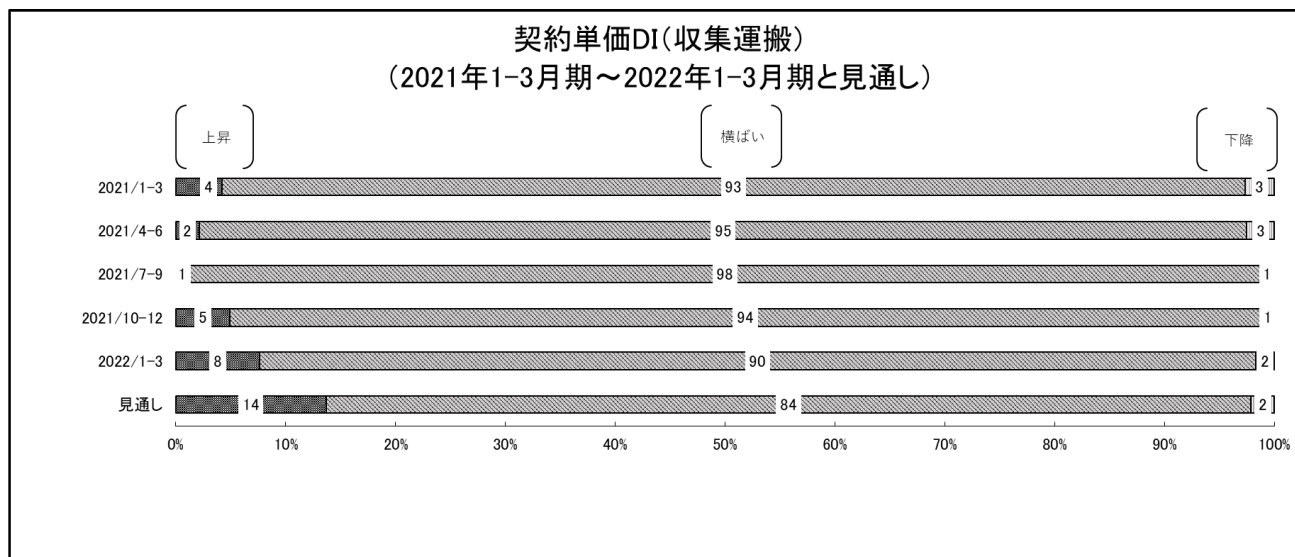


【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



### (3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 6 となり、前期と比べて 2 ポイント改善した。  
見通しは 12 となり、6 ポイント改善する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 5 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。  
見通しは 12 となり、7 ポイント改善する見込みとなっている。



## 2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、1.4%減となった。

有効回答数:100社

単位:千円

前年売上高	2021年1月	2021年2月	2021年3月	平均
	4,975,018	5,039,868	6,016,898	5,343,928
今年売上高	2022年1月	2022年2月	2022年3月	平均
	4,741,992	5,099,117	5,972,634	5,271,248
前年比	▲4.7%	1.2%	▲0.7%	▲1.4%

## 3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、5.5%減となった。

有効回答数:104社

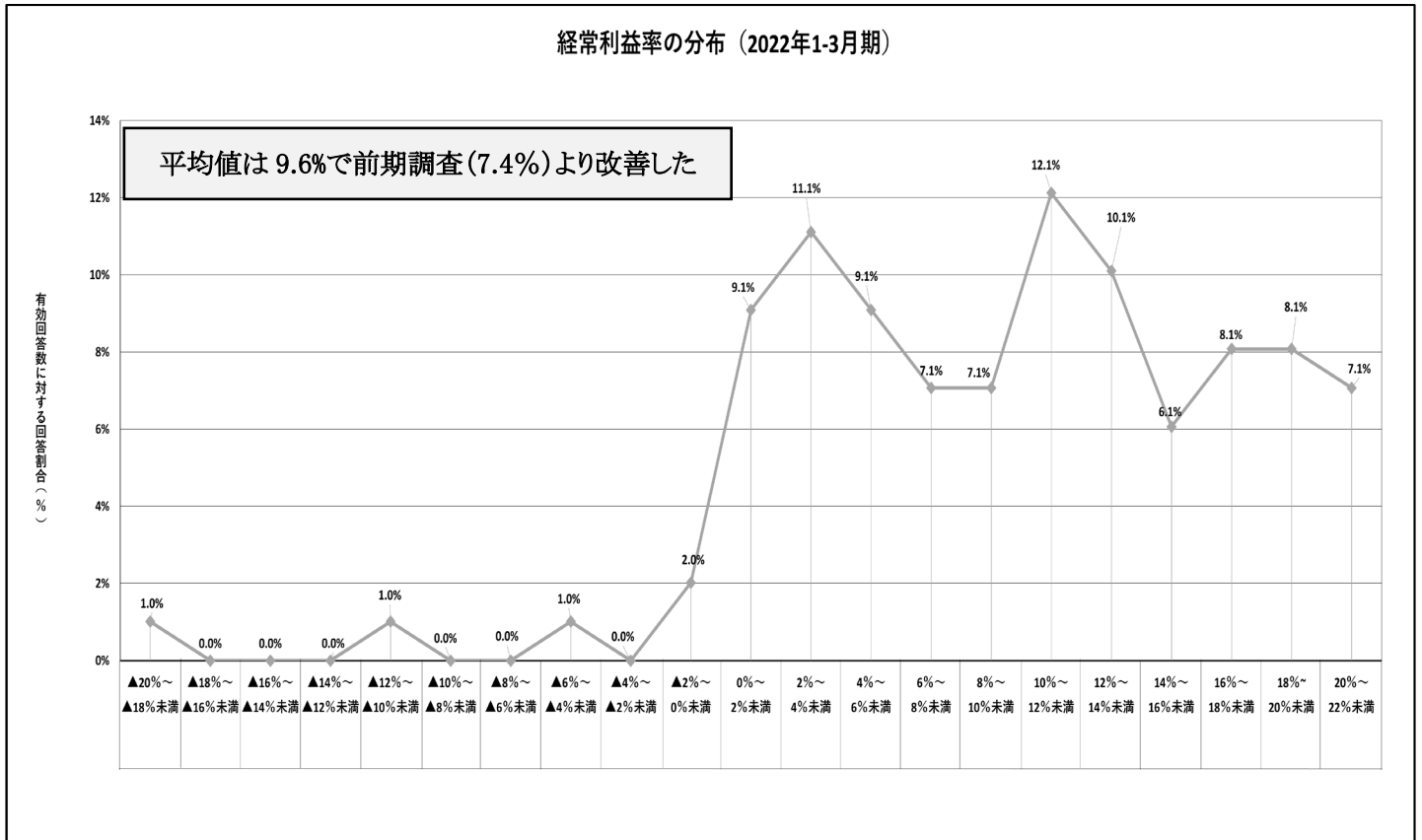
単位:トン

前年処理量	2021年1月	2021年2月	2021年3月	平均
	221,972	242,801	278,948	247,907
今年処理量	2022年1月	2022年2月	2022年3月	平均
	202,605	228,013	272,192	234,270
前年比	▲8.7%	▲6.1%	▲2.4%	▲5.5%

#### 4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

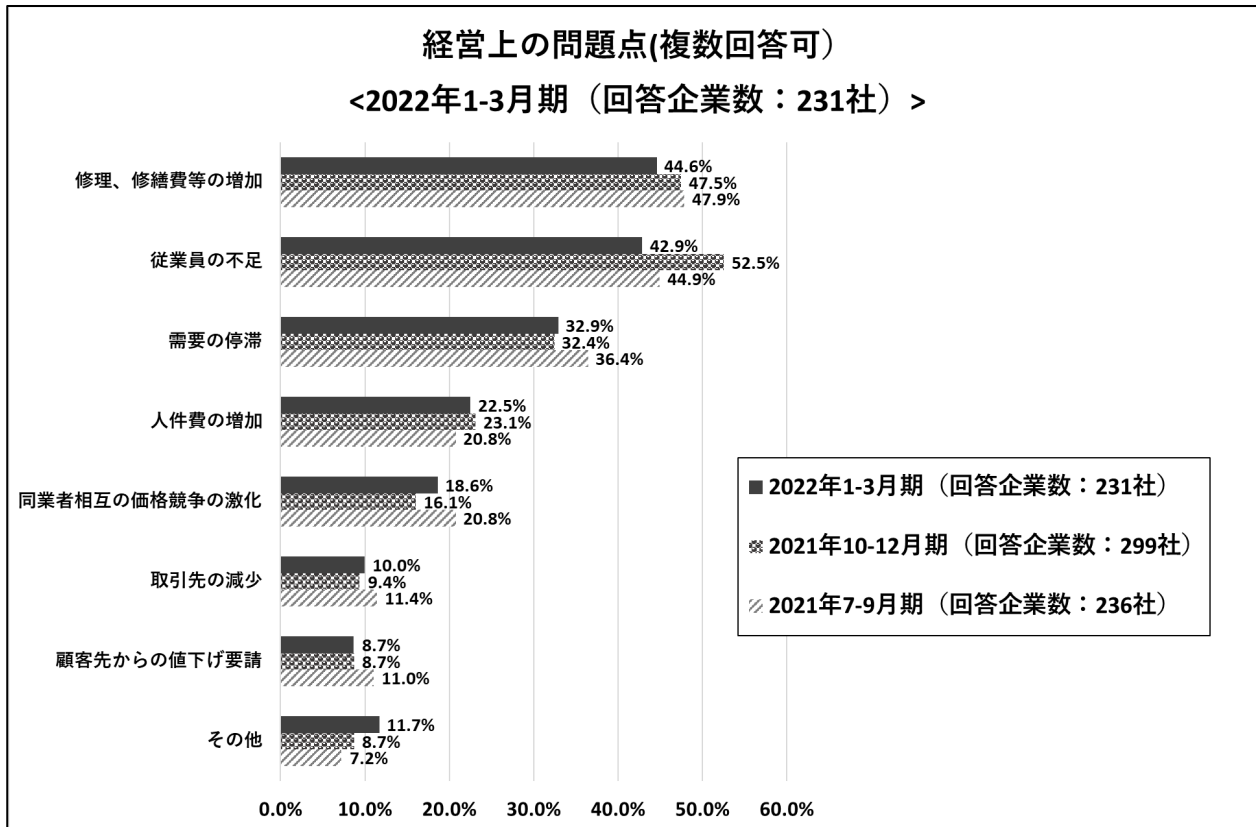
- 経常利益率の平均値は 9.6%で前期調査(7.4%)より改善した。

有効回答数:99 社



## 5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、約4割の会社が「修理、修繕費等の増加」「従業員の不足」を挙げた。
- 「その他」の記述回答では、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



### 【その他記述回答の代表的な意見】

- ・燃料費の高騰(全19件)
- ・プラ新法への問い合わせが多いが、具体的な動きが取れず苦慮した。
- ・最終処分場の受入れ制限及び値上げ

## 〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

### (1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

### (2) 調査期間

2022年4月7日～4月30日

### (3) 調査方法

Webによるアンケート

### (4) 回答数・回答率

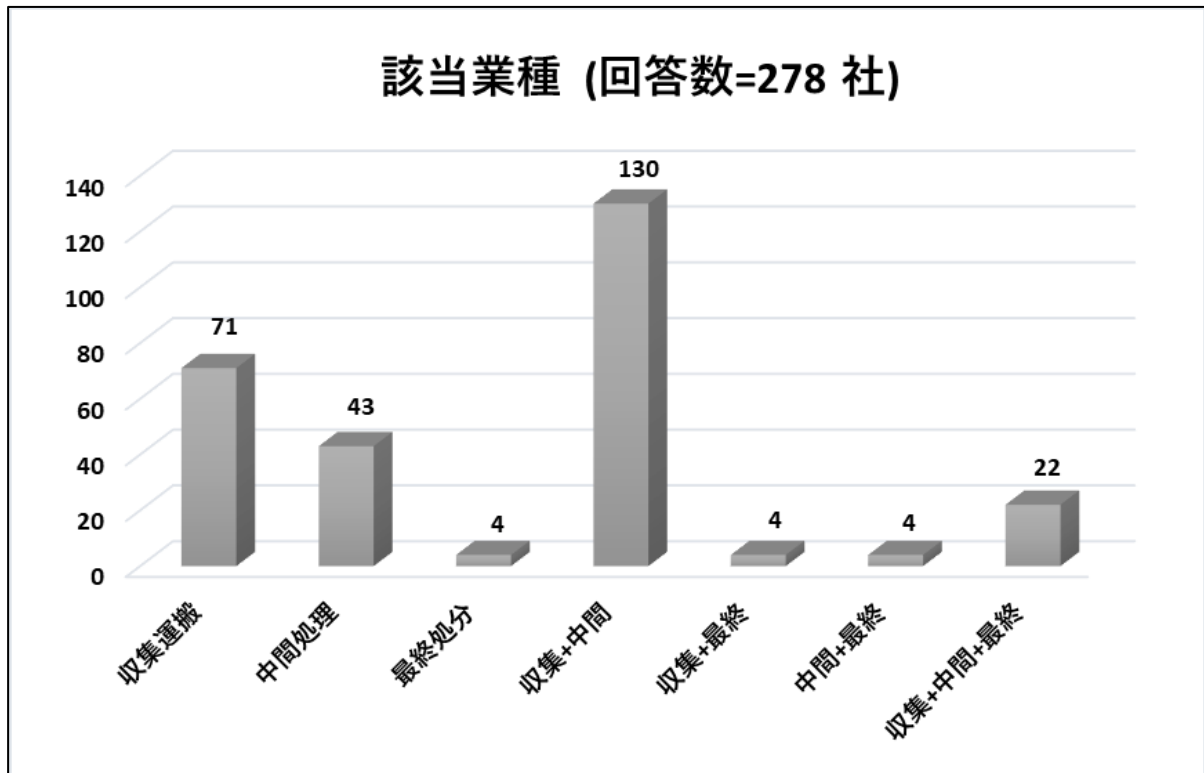
調査依頼企業数	1,159社
回答企業数	278社
回答率	24.0%

### (5) サンプル構成

#### ① 地域別構成

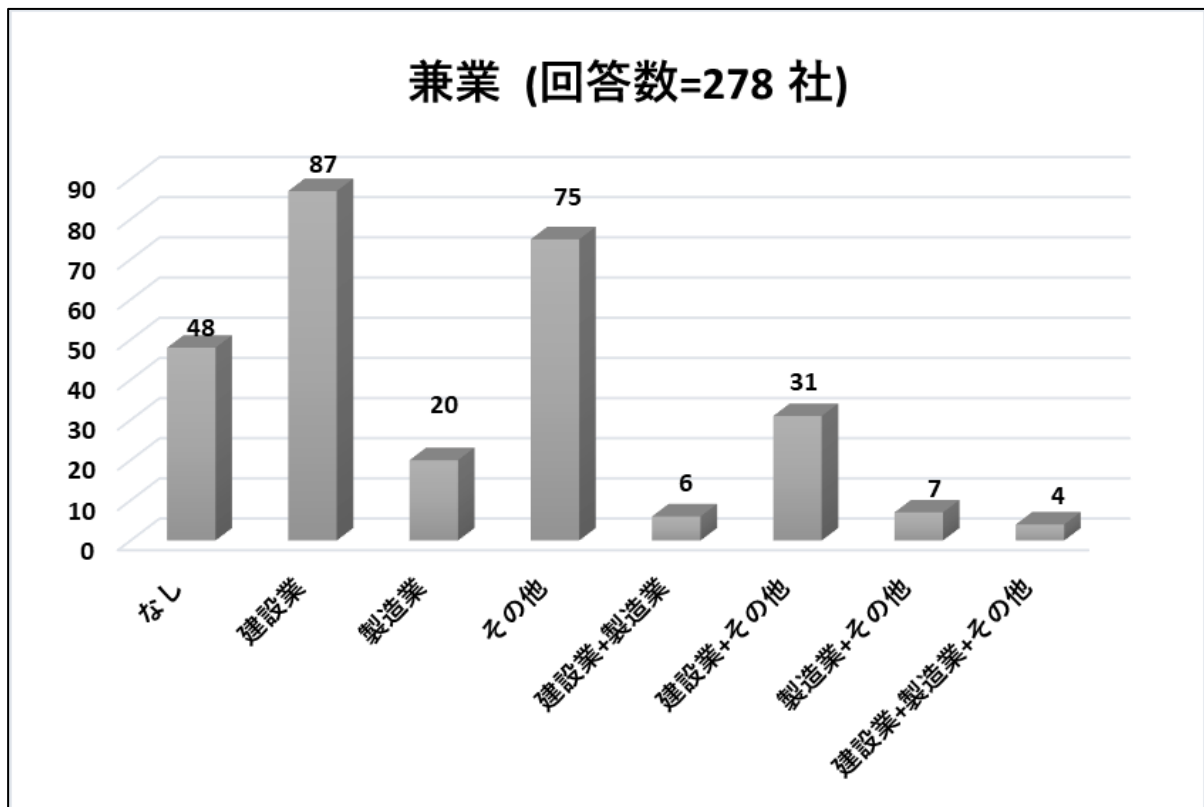
地域	企業数	構成比
北海道・東北	46	16.5%
関東	52	18.7%
信越・北陸	29	10.4%
中部	32	11.5%
近畿	26	9.4%
中国	21	7.6%
四国	30	10.8%
九州・沖縄	42	15.1%
合計	278	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	71	25.5%
中間処理	43	15.5%
最終処分	4	1.4%
収集+中間	130	46.8%
収集+最終	4	1.4%
中間+最終	4	1.4%
収集+中間+最終	22	7.9%
合計	278	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	48	17.3%
建設業	87	31.3%
製造業	20	7.2%
その他	75	27.0%
建設業+製造業	6	2.2%
建設業+その他	31	11.2%
製造業+その他	7	2.5%
建設業+製造業+その他	4	1.4%
合計	278	100.0%